

1 遺伝子解析による微生物の迅速同定法〈G4-7- 2 191〉

3 2.2. PCR 及び 3. 判定の項を次のように改める.

4 2.2. PCR

5 加熱処理した菌液の上清又はDNA抽出物を2 µL程度用い、
6 細菌の場合は10F(又は27F)／1492R(又は1525R)プライマーセ
7 ット、真菌の場合はITS1F(又はITS5F)／NL4Rプライマーセ
8 ットを添加して、用いるPCR酵素に最適な条件でPCRを行う。
9 菌種により、細菌の場合は約1200 ～ 1600 bp、真菌の場合は
10 約1000 ～ 1400 bpのDNA断片が増幅生成する。PCRを行う際
11 には、陰性対照(菌液の代わりに被検菌処理液)を置く。なお、
12 PCRの代わりに他の核酸増幅法を用いてもよい。
13 また、合理性があれば他のプライマーセットも使用可能である。

14 3. 判定

15 一般に、得られた塩基配列とデータベースとが97%以上²⁻⁴⁾
16 合致した場合、以下のように判定できる。なお、一致度が97%
17 を下回る場合、又は複数の属が上位の一致率で検索された場合
18 は他の同定法を考える。
19 (以下略)